

令和2年度 摂津市立味生小学校 第2回学校協議会 要点録

令和3年1月13日(水) 18:55~20:10

於：味生小学校 ランチルーム

記録 清家 伸次(事務局:本校教頭)

全 委 員 出 席

1. 今西会長より挨拶

今西:寒い中、また、コロナ禍の大変な状況の中、お集まりいただいたことに感謝。今年度も残すところ 3 か月を切った。3月まで、地域みんなで子どもたちを見守り、支援したい。

2. 校長より挨拶

校長:緊急事態宣言が再発令。このような中、お集まりいただき感謝。今後、感染拡大防止のため、指示に従い、また、学校でもできる限りの対策を考える。本日は開催場所を広い場所に変更し、時間も1時間程度としたい。

先週から3学期がスタート。短い学期であるが、卒業・進級に向けた取組みを進める。本日の会議は、先月実施した学校教育自己診断のアンケート結果をご覧いただき、ご意見を伺いたい。

3. 学校教育自己診断のアンケート結果について

校長:コロナウイルス感染症対策により、行事のことなどで昨年度と若干質問の変更あり。児童、保護者、教職員の順に結果の概要を説明する。

児童アンケート

3年生以上の児童が回答。新型コロナウイルス感染症の影響が数値に表れている項目があるのが今年度の特徴。

- ・肯定的な回答の割合が上昇した項目：学校全体での取組みや教員の指導の成果と考える。
(算数で少人数授業・分散授業などを通して勉強がわかりやすくなりましたか)、
(味生の四か条をはじめ学校のきまりを守っていますか)
(そうじ時間を守り、キッチンとそうじしていますか) など
- ・今後、結果を分析し改善が必要と考える項目（肯定的な回答の割合が低下）
(授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがありますか)【約7%低下】
→交流などの言語活動を中心とした授業づくりに取り組んでいるが、不十分
(マンガや図鑑以外の本をよく読んでいますか)【約30%低下】
→「いいえ」の数値の割合が大きい。読書の機会を増やす取組みが必要。
(早寝・早起きで睡眠時間は足りていますか)【約34%低下】
→睡眠時間の減少は気になる。3人に1人は睡眠時間の不足を感じている。
新型コロナウイルスの影響でゲームをする時間が増大。
学校でも生活習慣の改善に取り組む必要。
(家に帰ってから、友だちとよく遊びますか)【約26%低下】

→新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控えるようになっている結果と分析。
(あいさつがきちんとできていますか)【約19%の低下】
→「いいえ」の割合が約20%。5人に1人、挨拶ができていない。

保護者アンケート

今年度より、回答に「わからない」を追加。

(お子さんは、毎日楽しく登校している)【約3%の低下】
→肯定的な回答の割合は高い数値ではあるが低下。
4人に1人は楽しくないと答えていることを真摯に受け止めたい。
(お子さんは、テレビやゲーム、携帯・スマホの使い方についてルールを守っている)
→肯定的な回答の割合は上昇しているが、否定的な回答の割合も高い。
SNSのトラブルにつながっている場合も多い。

・肯定的な回答の割合が大きく下がっており、早急に取り組むが必要な項目として注目。これらの質問では「わからない」の数値が大きく、学校の発信の弱さの表れとも言える。情報発信を工夫すれば、肯定的な回答の割合を増やすことができるということでもあると考える。
(学校はホームページや学校だより等で教育方針やお子さんの様子、学習内容などの発信をしている)
(学校は、お子さんのことをよく理解し、指導してくれる)
(学校は、お子さんのことについてよく相談に応じてくれる)
(学校は、不登校やいじめのない学校づくりに取り組んでいる)
(学校は、PTA活動に積極的である) ※ここでの学校は何を示すのかが不明確。

教職員アンケート

回収率が低く、配慮が足りなかったと反省。

・注目する項目
(自分には、悩みや課題意識を相談し合える人間関係がある)
→教職員の集団の中に馴染めていない教職員がいるかもという視点で、教職員の人間関係を見守りたい。
(自分は、学校のホームページを定期的に確認している)【否定的な回答の割合が高い】
→情報発信の弱さは、学校内部にもある。
これが保護者のアンケート結果にも影響を与えている。
・校長のリーダーシップなどに係る質問
→前年度と比較して、肯定的な回答の割合が低くなった項目が目立つ。

各委員からの意見

委員:新任校長ながらコロナ禍の中、学校運営に励んでいる。強いリーダーシップは、次年度以降に期待したい。

委員:教職員の70%の回収率は低い。100%をめざすべき。

委員:教職員の自己評価が高い傾向。さらに発信し、教育活動の内容をもっと知っていただく必要があるのでは。

委員:「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答の割合が保護者は90%近いが、児童は75%ほど。この開きが気になる。嫌なことがあってもどこにおいても話せないではないか。それをいかに聞いてあげることが大切。

委員:「学校で相談できる先生がいますか」で、相談できない児童が21%ほど。これだけの児童が相談できないことは悲しい。

委員:「マンガや図鑑以外の本をよく読んでいますか」の肯定的回答の割合が、児童は50%、保護者は20%。家で本を読む機会がなかったり、保護者が読んでいるところを見ていなかったりするのではないか。

委員:子どもも何をして過ごせばよいか、悩みながら生活している。遊び方について悩んでいる。オンラインゲームばかりやっている。たしかに読書をしている姿を見かけない。

委員:学校協議会や地域の集まりでも、学校が頑張っていることをもっと話して欲しい。それが、地域で広がっていくはず。そうすれば、学校を応援してくれる人も増えるはず。

委員:「わからない」の数値がとても大きい。この数字を肯定的な回答に変えていくことが大切。

委員:保護者間のつながりが薄くなっていると感じる。共働きの家庭も多く、子どもの登校よりも先に親が出勤しなければならないこともよくある。そんな時に、こども会や地域が、子どもや保護者の助けになればいいと思うが、かつてのようなことは少なくなっている。

委員:PTAには期待したい。つながりづくりを助けて欲しい。

委員:PTAに過度に望むことは酷。しかし、PTAの存在の意味は大きく、学校と話し合いをしっかりと行って欲しい。

委員:地域でもPTAを応援し、協力したい。

委員:警察に、学校近辺の見回りもして欲しいと申し入れをしていきたい。特に、登下校の時は見回りをして欲しいと伝えたい。

委員:PTAへの加入をしてこそ、学校のことがわかる。やってみてPTAの楽しさもわかる。

委員:学校も意図的に、学校の情報発信をしていく必要がある。

委員:教職員アンケートの「自分には、悩みや課題意識を相談し合える人間関係がある」の肯定的回答の割合が減ってきている。教職員同士でも積極的にコミュニケーションをとろうと思わない人が増えてきているようで残念。人間関係や集団のつながりができにくい。そのような場から生まれる「助け合いの気持ち」もあるはず。地域とのつながりを大切にする気持ちも同じではないか。

委員:先生も時々下校時に、子どもと一緒に帰って、地域の人との顔つなぎを行ってはどうか。先生の顔がわからないと、コミュニケーションもとりにくい。地域へのアピール行動も時には必要だと思う。

4.次回について

校長:第3回を令和3年1月27日(水)に実施したい。今日の説明や意見交換をもとに、次回は皆様に今年度の学校関係者による学校経営の評価をお願いする。

委員:実施について承知した。資料を読み込んで出席したいので、資料の事前配付をお願いしたい。